

令和元年度(平成31)指定  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」  
(地域魅力化型)

# 研究開発実施報告書

第3年次



令和4年3月  
島根県立松江東高等学校



# 松江東高等学校グランドデザイン

## ～教育方針～

高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で、人間性豊かな人材の育成を目指す

## ～目指す学校像～

生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校  
地域連携で深い学びを追究する普通高校

## ～育てたい生徒像(グラデュエーション・ポリシー)～

自分らしいライフデザインの実現を目指す生徒  
持続可能な社会を創造する「地域共創人」

## 「東高生が身につける力」を育てる学び(カリキュラム・ポリシー)

### 人とつながって生きる力を 育てる学び

～さまざまな人と協働する  
基礎力を育てる～

多様な人とつながる力を育てる  
教育活動

#### <自他の人権を尊重する>

- すべての教育活動を通して、一人ひとりの大切さが認められている環境づくりを進める

#### <互いに支え合い、高め合う>

- 日々の授業や部活動、生徒会活動や校外活動等を通して、互いに認め合い、高め合う集団づくりの取り組みを進める

多文化  
協働力

### 自己の未来を 切り拓いていく力を育てる学び

～「問い」を生み出す挑戦～

生徒の「知」の獲得に対する  
内発的な動機付けを促す授業

#### <深く学ぶ>

- 島根大学と連携した新しい学びの展開により自己の「知」を拡げる機会を提供する
- 基礎的・基本的な知識の確実な習得を促す

#### <選んで学ぶ>

- 多様な選択科目の展開で「自らの学びを創り出す力」をのばす
- データサイエンスや国際交流、プログラミングや地域探究などを通して Society5.0を生き抜く力を高める

主体的学習者  
としての力

探究的  
学習力

### 地域社会の「今」と「未来」に 関わる力を育てる学び

～「未来」につながる「出会い」を創る～  
生徒の人生の「ロールモデル」としての  
魅力ある「大人」との出会いの創出

#### <自分の今と将来を考える>

- 様々な大人との出会いを通して、自分の生き方やあり方を考える場をつくる

#### <地域の今と将来を考える>

- 島根大学、地域の企業・団体と連携した魅力ある地域探究プログラムで、よりよい地域の創造をめざす「ハート」を育み「実践力」をのばす

地域共創力

社会的  
自立力

## 自立への道程

## ～求める生徒像(アドミッション・ポリシー)～

自分の持つ可能性を拡げるために、様々な活動に挑戦する志を持つ生徒

～協働して生徒の学びを支えるコンソーシアム～

島根大学・松江市・中小企業家同友会・  
松江商工会議所・PTA・東雲会・嵩の嶺会

# 東高生につけさせたい力 ルーブリック表

## 地域共創人とは

- 「夢に向かって挑戦する人」
- 「地域社会の未来に向けて挑戦する人」
- 「他者と協働して新たな価値を創造する人」

教育目標 (3つの力の育成)	「地域共創人」としてつけさせたい5つの力	5つの力を構成する要素	具体的な生徒の姿	Lv.1 (ほとんどできなかつた)	Lv.2 (少しだけできた)	Lv.3 (わりとできた)	Lv.4 (かなりできた)
人間力	多文化協働力 (核となる要素①②⑥)	①自分を知る力	自身の個性を理解し、自己の在りたい姿に向け行動できる。	自分の強み・弱みがわからない。	自らの強み・弱みを踏まえたい行動はできていないが、強み・弱み自体は理解している。	自らの強み・弱みを理解し、目標達成のために努力すべきことが分かっている。	自らの強み・弱みを理解し、目標達成にむけた行動ができる。
		②他者を受け入れる力	他者の発言や考え方を理解し、尊重や受容ができる。	自分とは異なる考え方や意見が理解できない。	自分とは異なる考え方や意見を受け入れることはできないが、理解はできる。	自分とは異なる考え方や意見を理解し、受け入れることができる。	自分とは異なる考え方や意見を尊重し、さまざまな人と共通の目標にむかって協力して活動できる。
学力	主体的学習者としての力 (核となる要素③④)	③主体的に行動する力	自ら進んで行動できる。	指示されたことを最後までやり抜けない。	指示されたとおりに行動できる。	指示されたことに自分なりの工夫を加えて行動できる。	自らやるべきことを見つけ、進んで行動できる。
		④諦めず追究する力	興味・関心のあることを納得がいくまで探ることがができる。	自分の身の回りや社会のことに、興味や関心を持ってない。	自分の身の回りや社会のことに興味や関心を持つ。	自分の興味や関心に対してひとつの情報をから、さまざまな視点で考えを深められる。	自分の興味・関心に対して複数の情報から、さまざまな視点で考えを深められる。
	探究的学習力 (核となる要素⑤)	要因と結果・結論を結びつけて考えることができる。	要因と現在起こっている結果・結論とを結びつけて考えることができない。	要因と現在起こっている結果・結論とを結びつけて考えられる。	ひとつの要因から、これから起こる結果・結論を予測できる。	様々な要因から、これから起こる結果・結論を予測できる。	
社会力	地域共創力 (価値創造力) (核となる要素⑥⑦)	⑥伝える力	相手に伝えるように自分の考えを表現することがができる。	身近な人であっても自分の考えを伝えることは苦手だ。	身近な人に、自分の考えを伝えられる。	だれに対しても自分の考えを伝えられる。	だれに対しても、自分の考えをわかりやすく伝えられる。
		⑦地域と関わる力	居住または生活している地域のために行動することができる。	地域に対して働きかけをしたと思うことはない。	何をしたいかかわからなく、地域の発展に対して働きかけをしたい。	地域の魅力や課題を理解し、地域の発展のために自分ができることを考えることができる。	地域の魅力や課題を理解し、地域の発展のための活動に参加している。
	社会的自立力 (キャリア形成力) (柱となる要素⑧)	将来どのような人生を歩みたいかを考え、どう生きていきたいかを考えることができる。	将来のことを全く考えていない。	なりたい姿や就きたい職業は決まっていらないが、将来を漠然とは考えている。	どんな人生を歩みたいかや、将来ありたい姿をイメージするのための行動ができる。	どんな人生を歩みたいかや、将来ありたい姿をイメージすることを考えられる。	

松江東高校

# 地域共創人育成Project

高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で人間性豊かな人材の育成をめざす

## 「地域を共に創るハート」

- ★人とつながって生きる力
- ★自己の未来を切り拓いていく力
- ★地域社会の今と未来に関わる力

これからの社会に対応した  
魅力ある授業

### 「総合的な探究の時間」

- ・地域企業と協働した魅力探究プログラム
- 「EAST国際交流基礎」
- ・国際交流の基盤スキル習得プログラム
- 「データサイエンス」
- ・データを活用した地域課題解決力育成プログラム

3年生

～「探究」の実践 アクションを自ら起こす～

地域の中から新しい価値を創造する

### 「EAST地域探究」

- ・地域探究アクションプログラム
- 「EAST国際交流」
- ・島根大学留学生との交流プログラム
- 「EASTプログラミング基礎」
- ・「Ruby」を活用したプログラミング学習

2年生

～「なぜ」「どうして」をもとに  
地域と協働し、課題探究に挑戦する～  
地域とつながり探究する  
地域とともに挑戦する

人生の「ロールモデル」と  
なる魅力ある「大人」との  
出会い

### 「東高カフェ」

- ・生徒自身が創造する出会いの場

1年生

～「なぜ」「どうして」という「学びのタネ」をもつ～  
地域に関心を持つ  
地域の価値を知る

### 「総合的な探究の時間」

- ・大学の学問の魅力探究プログラム
- ・MATSUE魅力探究プログラム

高の嶺会

協働して生徒の学びを支えるコンソーシアム

中小企業家同友会

東雲会

松江商工会議所

松江市

島根大学

P T A



# 巻 頭 言

島根県立松江東高等学校

校 長 田 中 正 樹

文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」も今年度が3年目、最終年となりました。昨年度までの2年間、「地域共創人育成Project」として、カリキュラム研究に取り組みながら、本校の魅力化・特色化を進めて参りました。今年度は、過去2年間の成果を踏まえつつ、本校が進めてきた地域連携のあり方について再考するとともに、指定終了後のあり方についても検討を重ねてきました。

一方、今年度の高等学校入学者選抜から、本校の所在する松江市内の普通高校3校の通学区が撤廃され、市内の中学校3年生が居住地に関わらず自由に市内の普通高校を選択できるようになりました。このような中、今年度入学した1年生に対し行った意識調査で「本校を選んだ理由」を尋ねたところ、最も多かったのが、「大学等への進学指導が充実している」でした。

本校に対するこのような期待と「地域社会に関する学びを深める学校」にしたいという思いを踏まえ、今年度「目指す学校像」の中に「地域連携で深い学びを追究する普通高校」を加えました。これは、地域連携を通して、地域で活躍されている様々な方の思いや考え方に直接触れ、地域の今と未来に思いを馳せながら、生徒一人ひとりの進路実現をめざしより深い学びを追究する普通高校という意味です。

本校では多くの生徒が4年制大学への進学を希望しており、このような地域連携による学びと生徒の進路実現をつなげていくことは本校の重要な使命です。今年度は初めてこの事業を3年間経験した生徒が大学受験を迎えました。中には、地域連携による探究学習で得た力を発揮し、進路実現を成し遂げた生徒もいます。地域連携による学びが大学の学びに発展した後、地域に還元されるという流れも一部ではありますができつつあります。

また、一方でコロナ禍で沈んでいる地元のライブハウスを盛り上げようと自ら関係者にはたらきかけ、高校生主体のライブ「Sound Edge」を開催した生徒もいます。この生徒は大学には進学しませんが、高校卒業後更に専門性を高め、将来は松江市にもどって地域を元気にしたいと言っています。

それぞれ歩む道は異なりますが、地域との関わりを通して、自分が将来どのような形で地域に貢献したいのかという自己の「ライフデザインの実現」が図られ、よりよい社会を地域の方々と共に創り上げていこうとする「地域を共に創るハート」が生まれつつあるように感じています。

地域連携のあり方については、まだまだ多くの可能性があります。よりよい地域づくりをめざし起業家精神を育てるような事業、大学生の先輩による伴走から生まれる高大接続など、追究していく要素はたくさんあると感じています。本校で実施している総合的な探究の時間では、島根県中小企業家同友会に所属されているたくさんの企業・団体の方や地域の小学校・公民館等と日常的に関わりながら、地域の将来について考える取組を行っていますが、これも極めて貴重な学習機会であると考えています。

現在、コロナ禍で多くの教育活動が制限を受け、いろいろと心配な状況が続いてはいますが、今後は3年間の成果を生かし、教科横断的で深い学びへと発展していくことをめざした取組など、新しい教育の創造に邁進して参りたく存じます。引き続きご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本事業に多大なご支援をいただいています島根大学、松江市役所、島根県中小企業家同友会、松江商工会議所の皆様、さらにはご支援いただいた文部科学省、島根県教育委員会の方々に心よりお礼申し上げます。

# 目 次

ページ

第1章 研究開発の概要	
1 目的・目標	1
2 現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果	2
(1) 現状分析	
(2) 研究開発の仮説及び期待される効果	
3 具体的内容	3
(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画	
(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制	
(3) 必要となる教育課程の特例等	
(4) その他特記事項	
4 具体的指標	4
(1) 地域人材を育成する高校としての活動指標	
(2) 普及活動	
(3) その他本構想における取組の具体的指標	
第2章 研究開発の内容	
1 実施体制	5
(1) 管理機関の取組・支援について	
(2) コンソーシアム構築について	
(3) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について	
(4) 校内組織について	
(5) 運営指導委員会について	
2 研究開発の実績	20
(1) 「地域共創人育成 project」カリキュラム開発	
(2) 文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究	
(3) 教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究	
(4) 教育を核とした多文化協働・地域共創研究	
(5) 持続可能な学校魅力化事業研究	
(6) 単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究	

第3章 普及活動	
1 研修・説明会	.....42
(1) 探究学習推進担当者研修（島根県教育委員会）	
(2) 島根県議会文教厚生委員会調査（島根県）	
2 総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ、Ⅱ」の公開	ページ
学校設定科目「EAST 地域探究」の公開	.....44
(1) 1年生 総合的な探究の時間「MATSUE 探究」の公開	
(2) 2年生 総合的な探究の時間「MATSUE 探究」の公開	
(3) 3年生 学校設定科目「EAST 地域探究」の公開	
3 その他広報活動	.....45
(1) 学校訪問	
(2) ホームページにおいて魅力化事業の成果を普及	
(3) 広報誌「EAST NEWS」	
(4) パンフレット及び成果報告書の印刷・配布	
(5) 学校 PR 動画の作成	
(6) 活動が紹介された雑誌等	

第4章 研究開発の効果とその評価及び事業終了後を見据えた取組	
1 目標の進捗状況、成果、評価	.....46
(1) 研究開発の成果目標、活動指標	
(2) キャリア・パスポートによる評価（生徒による自己評価）	
(3) カリキュラム開発等専門家による評価	
2 教職員の資質向上	.....53
(1) 授業改善のための公開授業・研修	
(2) 魅力化に関する教職員研修会	
3 研究開発Ⅰ～Ⅵの今後の課題と方向性	.....55

【参考資料】

- 1 2年生「総合的な探求の時間」の活動振り返りシート
- 2 協力企業・団体アンケート回答結果過年度比較
- 3 魅力化に関する教職員アンケート
- 4 高校魅力化評価システムの結果  
（本校のルーブリックにあてはめ分類したもの）

## 第1章 研究開発の概要

対象学科 生徒数	普通科 (R3.5.1 現在)								学校全体の規模					
	1年		2年		3年		計		1年5クラス 2年6クラス 3年5クラス					
	177名		193名		180名		550名							
教職員数	校長	教頭	事務長	主幹教諭	教諭	養護教諭	常勤講師	非常勤講師	実習助手	ALT	事務職員	学校司書	その他職員	計
	1	1	1	1	37	1	3	11	1	1	3	1	10	72
研究開発 構想名	中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成													
研究開発 の概要	<p>大学や地域の企業等との連携強化に取り組みながら、地域の未来を共に創っていく「地域共創人」を育成する。確かなしまね（まつえ）マインドを持たせることで松江地域の人材の定着、人材の環流につなげる。</p> <p>高校魅力化の先進県である島根県が培ってきたノウハウを活かし、全国の中核市のモデルケースとなることを目指す。</p>													

### 1 目的・目標

本校が核となる「松江東高校地域共創人コンソーシアム」が目指す地域人材像は、「中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら地域社会の未来に向けて挑戦する人」であり、同時に「地域のなかで生成された多様な価値くひと・しごと・こと（歴史・文化・自然）>を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら自己実現を図る人」である。

これを「地域共創人」と定義した本校は、次の6点を目標に、それに必要な力と位置づけている「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力(キャリア形成力)」、「地域共創力(価値創造力)」、「多文化協働力」を身につける教育環境を3年間で構築する。

- 1 卒業時に、入学時と比べて地域への興味・関心や愛着を持つ生徒が増加するとともに、実際の地域課題を自ら設定して取り組む生徒が増え、課題が解決された事例や解決策の事例が複数存在する。
- 2 卒業時に、入学時と比べて自分や地域社会の未来のビジョンを具体的に創造し、それを周囲に伝達できる生徒が増加する。
- 3 事業終了時に、高大連携をすすめている島根大学との協働の機会が増大し、あわせて入学希望者も増加する。
- 4 事業終了時に、島根大学以外の共創する人々との協働の機会が増大し、あわせて卒業時の地元就職率・進学率が増加する。
- 5 事業終了時に持続可能な事業モデルとして、校内・地域に浸透し、事業が継続される。
- 6 事業終了時に魅力的な事業モデルとして紹介され、中核市をはじめとした中規模都市に事例が導入される。

## 2 現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果

### (1) 現状分析

本校は島根県で中核市となった県庁所在地でもある松江市に立地する。中核市である松江市の利点は、都市の機能が身近に感じられるスケールの中でまとまっていることである。松江市の経済は伝統産業から地元資本の中小企業、さらには都市資本の大企業の支社・工場まで活動しており、第一次産業から第三次産業までのあらゆる産業で成り立っている。つまり地方であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するのが松江市という中核市のスケールメリットである。松江市という地域のなかで生成された多様な価値を探究しつつ、地域課題の解決に挑み、知的好奇心を高めていくことは新たな価値を協働して、創造していこうとする素養を養うことにつながると考える。

現在の社会においては、モノ・カネを有効に活用するための知識や情報が各分野において共有されず分野横断的な連携が不十分であり、その活用はヒト、つまり各個人の資質・能力に任されてきた面が大きい。また、各分野の主体（企業等）が定めた目標にしたがって与えられたことを各個人がこなす中で、各個人は他者評価（社会や企業等による評価）により自己実現の尺度を求めてきた部分も大きい。他者評価であるがゆえに、価値が高いものが多く集中する都会地を地方出身者はめざしてきた。しかし、Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全てのヒトとモノがつながり様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで今ある課題や困難、例えば少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差、人材不足が克服されていく社会である。人工知能（AI）により必要な情報が必要な時に提供されるようになり課題や困難が克服されていく社会である。その社会において大事なことは、各個人が主体的に様々な分野の物事にに関わりながら分野を超えて、様々な知識や情報を横断的に共有するもの人々がチームとして協働し、新たな価値を創造していくことである。そしてその中で各個人が見出した価値に基づいて自己実現の判断ができるようになることである。

人口減少問題が課題となる中、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとて大きなものとなっている。島根県教育委員会は、生徒一人一人に地域社会の未来を切り拓く資質・能力を育むために本校を含めたすべての県立高等学校に対して「高校魅力化コンソーシアム」の設立等、高校魅力化を求めている。

本校は島根県教育委員会の「教育課程実践モデル事業」の指定を受け、2年間授業改善等を進めてきた。しかし、

- ①「主体的・対話的で深い学び」がまだ不足している。
- ②総合的な学習の時間の活動が調べ学習にとどまっている面がある。
- ③地域社会との関わりが少ない。
- ④体系的なキャリア教育が実施されていない。
- ⑤Society5.0の到来を意識した学習が不足している。

といった点にまだ課題が残っている。

### (2) 研究開発の仮説及び期待される効果

本校は島根県教育委員会より、「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校となることを求められている（島根県教育委員会『県立学校魅力化ビジョン』平成31年2月）。

一方、人口減少問題を抱える島根県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとて大きい。

本校が抱える課題や地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決等の探究的な学びを行

う等「社会に開かれた教育課程」の編成が不可欠である。

これを実現するために、産官学の連携をこれまで以上に強化し、松江市、島根大学、松江商工会議所や島根県中小企業家同友会等とともに「松江東高校魅力化コンソーシアム」を構築する。そして、中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来(Society 5.0)に向けて挑戦する人材を育成するため、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施支援員の協力を得て、次の6つの研究開発を行う。

- I 「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project）
- II 文理融合型の教育を目指す2年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究
- III 県指定で2年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究
- IV 教育を核とした多文化協働・地域共創研究
- V 持続可能な学校魅力化事業研究
- VI 単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究

地方都市であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するスケールメリットがある松江市をフィールドとした探究的な学びを進めていくことは、「地域共創人」育成の核となる取り組みである。

また、本校が目指す「地域共創人」の育成により、生徒にしまね（まつえ）マインドが形成されれば、松江市への人材の定着や環流、関係人口の増加につながると考える。また、大学や地域との連携が強化される中で本校と協働した企業や保護者の意識が変われば、持続可能な地域社会の実現につながっていくと考える。さらに、県庁所在地でもある松江市が活性化することで、島根県全体の活性化にもつながると考える。

さらに、松江市が抱える課題や問題は全国各地の同規模の都市が抱えており、本事業構想が成功すればそのノウハウを全国に提供することもできる。

### 3 具体的内容

#### (1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

総合的な探究の時間に「地域共創人」を育成する3年間の体系的なカリキュラム「地域共創人育成 Project」を開発する。

1年次には「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2年次には「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3年次には「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げて実施する。成果発表等を通して保護者や地域の関係機関の意識改革を目指す。

#### (2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

本事業構想の企画・運営を行う「教育プログラム開発ワーキンググループ」と校内組織として新設する「魅力化推進部」を中心にカリキュラム・マネジメントを推進する。「魅力化推進部」は教員6名を配置し、本部員に加え、カリキュラム開発等専門家2名<sup>1</sup>（高須佳奈氏、熊丸真太郎氏、地域協働学習実施支援員2名<sup>2</sup>（中村怜詞氏、千代西尾祐司氏、高校魅力化コンソーシアムマネージャー1名<sup>3</sup>（島根県教育委員会の「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」による配置）

<sup>1</sup> 令和3年度より 中村怜詞氏、丸山実子氏

<sup>2</sup> 令和3年度より 松尾奈美氏、大野公寛氏

<sup>3</sup> 令和3年度より 高大連携推進員（島根県教育委員会の「高大連携推進事業」による配置）

で構成する。

**(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。**

**(4) その他特記事項**

2017年度から2018年度にかけて島根県教育委員会から「教育課程実践モデル事業」の指定を受けた。大学教授等で構成された運営指導委員会の指導・助言を活かしながら、2年間授業、評価、カリキュラム設計の改善に取り組んだ成果として全教員がアクティブ・ラーニング型の授業に取り組むような風土が醸成されるとともに、学習成績評価の改善、授業評価アンケートの改善、教育課程の改善等が実現した。

**4 具体的指標**

**(1) 地域人材を育成する高校としての活動指標**

総合的な探究の時間「地域共創人育成 Project」の研究授業を年間に1年生は2回、2年生は1回、3年生は1回（地域共創コースは2回）実施する。また、研究開発Ⅲに係る公開研究授業を年2回実施する。

事業実施の3年間の成果目標

	内容	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標
1	県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数	5	6	7

**(2) 普及活動**

年に1回「研究発表会」を実施する。また、ホームページをリニューアルして取組の成果を広く発信する。

事業実施の3年間の成果目標

	内容	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標
1	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するための研究発表の回数	1	1	2
2	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数	25	30	35

**(3) その他本構想における取組の具体的指標**

本事業構想の3年間の成果を全国に発信するため、松江市とタイアップして全国の中核市の高校に呼びかけ、2021年度に「中核市高校魅力化シンポジウム」を開催する。「地域共創コース」の取組を紹介し、松江市と同様の課題を抱える全国の中核市に向けて発信して普及を図る。

## 第2章 研究開発の内容

### 1 実施体制

#### (1) 管理機関の取組・支援について

##### ア 取組・支援内容と年間スケジュール

取組・支援	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				1回								1回
コンソーシアム構築・運営支援	教育庁各課横断の伴走											
探究学習推進	研修① 担当者設定		ミニ研修①			ミニ研修②				ミニ研修③	研修②③ 発表会	
	探究指導主事の伴走											
コーディネーター研修		研修①	研修②③		研修④			研修⑤⑥		研修⑦		
高校魅力化評価システムによる調査・検証	研修①		調査	フィードバック	活用研修④		共有 活用事例					
	各校の検証、県担当者の伴走											
人員配置									予算要求			配置決定

### イ 取組・支援実績

#### ①運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の実施				1回								1回
授業への参加				1回				1回				1回
伴走者フォーラムへの参加										1月		
成果発表会への参加・助言									1回			
事業の広報									1回	1回		

## ②体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	4箇所先の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県 1/2）
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修3回、希望者3回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンラインでの実施）。その他、年間を通じて探究学習の推進に係る助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。結果を基に校内研修を実施している学校の事例発表を含めた、グランドデザイン実現に向けたPDCA構築のための教職員研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR3年度は15名配置、R4年度は3名増員。さらに、R3年度は高大連携を推進する職員を3名配置。

## ③事業終了後の自走を見据えた取組について

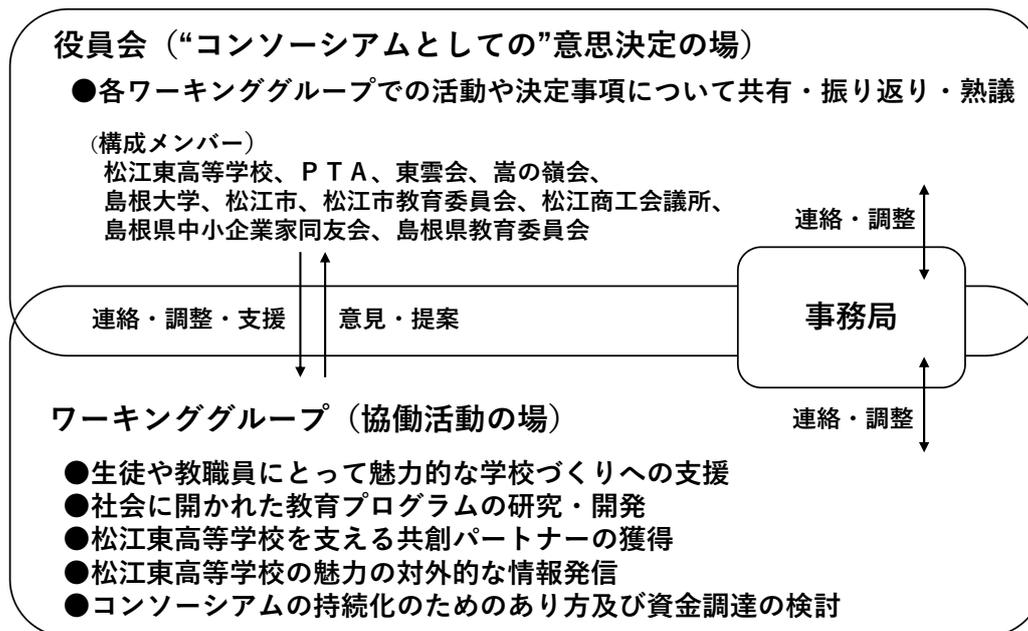
- ・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
- ・学校と地域が協働して取り組むPBL型研修の実施による、各コンソーシアムの主体的取組への推進支援
- ・令和3年度末にすべての高校でコンソーシアムが構築。令和4年度からは学校運営協議会制度を導入し、一体的に運用することで、法的権限を持った組織として機能強化
- ・すべての教職員が活用できるようICT環境の整備と研修を実施
- ・探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びについての質の向上研修の継続
- ・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続、知見を共有
- ・探究学習や教育課程開発を推進する教職員や教育魅力化コーディネーターの配置、養成・確保・育成
- ・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進。「高校魅力化評価システム」等を活用したPDCAサイクルの構築と活用研修の実施

(2) コンソーシアム構築について

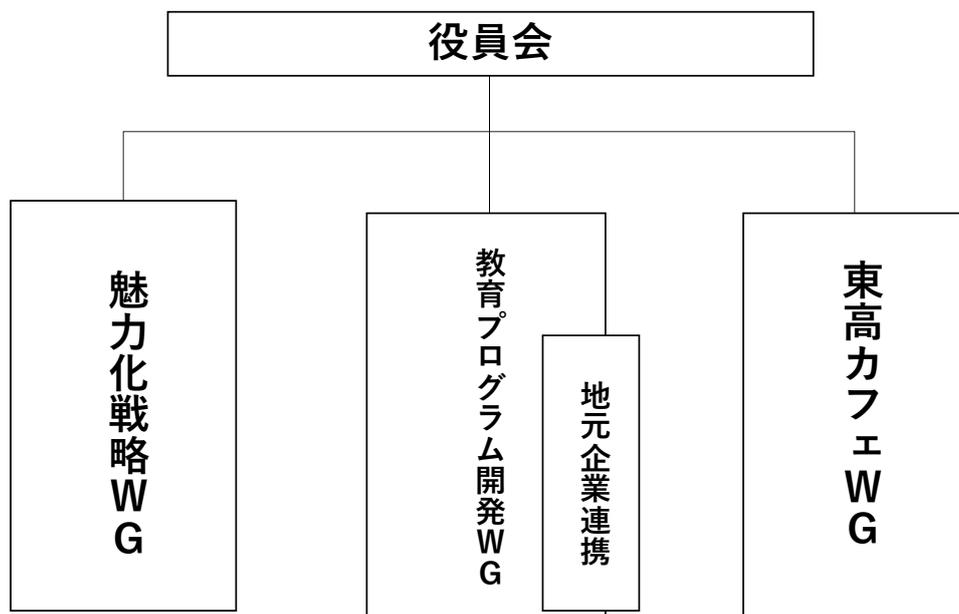
ア 構成団体、概念・体制図

松江東高等学校	松江東高等学校 P T A	東雲会(松江東高等学校同窓会)
一般財団法人嵩の嶺会	国立大学法人島根大学	松江市、松江市教育委員会
松江商工会議所	島根県中小企業家同友会	島根県教育委員会

コンソーシアム概念図



コンソーシアム体制図



## イ 構成員

### ○役員会

氏名	所属
物部 伸吾	東雲会 会長
田中 正樹	松江東高等学校 校長
廣光 一郎	島根大学 教育・学生支援機構 大学教育センター長
佐目 元昭	松江市役所 政策部次長
太田 強	松江市教育委員会 学校教育課長
竹下 昌宏	松江商工会議所 事務局次長
野津 積	島根県中小企業家同友会 代表理事
宮脇 健	嵩の嶺会 代表理事
大坂 慎也	松江東高校PTA 会長
長谷川 勇紀	島根県教育委員会 教育指導課 松江東高校伴走担当

### ○魅力化戦略ワーキンググループ

### ○教育プログラム開発ワーキンググループ

氏名	所属	部門	氏名	所属
登城 智宏	松江東高校教頭	全体	佐々木 玲子	松江東高校 主幹教諭 兼 魅力化推進部長
			南口 哲也	松江東高校
			南 千咲	高大連携推進員
大坂 慎也	PTA	1年部	中村 怜詞	島根大学
物部 伸吾	東雲会		松尾 奈美	島根大学
金見 誠司	東雲会		藤井 政之	松江東高校
宮脇 健	嵩の嶺会	2年部	丸山 実子	島根大学
泉 雄二郎	島根大学		大野 公寛	島根大学
中村 怜詞	島根大学		早川 康裕	松江東高校
佐目 元昭	松江市		足立 樹恍	松江東高校
太田 強	松江市教育委員会	連携 企業	野津 積	中小企業家同友会
吉廣 之晴	松江商工会議所		金築 理恵	中小企業家同友会
野津 積	中小企業家同友会		佐目 元昭	松江市
金築 理恵	中小企業家同友会		吉廣 之晴	松江商工会議所
長谷川 勇紀	島根県教育委員会		物部 伸吾	東雲会会長
田中 正樹	松江東高等学校		金見 誠司	東雲会
			宮脇 健	嵩の嶺会

### ○東高カフェワーキンググループ

氏名	所属	氏名	所属
福田 秀孝	松江東高校生徒部長	藤山 楓生	株式会社エブリプラン
足立 樹恍	松江東高校・東雲会	生徒代表	松江東高校

## ウ 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
4月7日	第1回教育プログラム開発 WG ・R3 年度「総合的な探究の時間」実施計画詳細
4月15日	第1回東高カフェ WG ・今年度の活動計画
4月31日	第2回教育プログラム開発 WG ・R3 年度 2 年生「総合的な探究の時間」の連携体制について
6月29日	第1回役員会 ・役員委嘱、会長、副会長の選出 ・コンソーシアムの構成 ・体制について各内容の協議と決定 ・昨年度の事業報告 ・今年度の事業計画
7月14日	第2回東高カフェ WG ・第1回東高カフェの内容等の検討
7月26日	第1回東高カフェ ・「仕事を知る ～松江市職員との懇談会～」
7月30日	第2回教育プログラム開発 WG ・1,2 年生「総合的な探究の時間」プログラム協議
9月22日	第3回東高カフェ WG ・活動計画の見直し
10月1日	島根県教育委員会との打ち合わせ ・高大連携推進員の上半期の活動報告 ・下半期の活動方針について
10月26日	第4回東高カフェ WG ・自走に向けた在り方の検討
11月11日	第2回役員会 兼 第1回魅力化戦略 WG ・授業視察 ・令和3年度 コンソーシアム事業の推進状況について ・令和4年度 コンソーシアム組織・事業の検討
11月22日	第5回東高カフェ WG ・自走に向けた在り方の検討
令和4年1月12日	第6回東高カフェ WG ・第2回東高カフェの開催に向けて
3月10日	第3回役員会（兼 第2回運営指導委員会） ・1 年生探究学習成果発表会視察 ・R3 年度の活動報告 ・R4 以降のコンソーシアム組織体制について
3月24日	第2回東高カフェ ・「自分のライフデザインについて」

エ 令和3年度事業計画等

(7) コンソーシアム全体事業計画

協働事業	活動内容	WGの担当領域	事業内容	主担当(分掌等)	詳細
地域共創人の育成	1 ミリオクをつくる (生徒や教職員にとっても魅力的な学校づくり)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     魅力化戦略                      教職開発                      東高カフエ                 </div>	校内連絡会の開催	教頭	毎週1回
	2 マナビをそだてる (社会に開かれた教育プログラム)の研究・開発)		総合的な探究の時間に関する拡大学年会の開催	主幹・魅力化、学年会	必要に応じて実施
			生徒の声を反映する仕組みの検討	教頭	学校評価アンケート(R3.12月実施)
			教職員アンケートの実施	生徒	生徒会アンケート「もしもBOX」
			教職員研修の開催	主幹・魅力化	高校魅力化評価システム(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)(R3.8月実施)
3 ナカマをふやす (松江東高等学校を応援するサポーターの獲得)	東高カフエの定期開催 ・卒業生とのつながり強化 ・地域企業・公民館とのつながり強化	主幹・魅力化、教務、学年会、高大連携推進員	主体的学習者等育成にかかる研修会(R3.9月実施)	学校評価アンケート(R3.12月実施)	「総合的な探究の時間」の実施内容
4 ミリオクをつたえる (松江東高等学校の魅力の対外的な情報発信)	統一的なPR 中学生、保護者へのアプローチ	魅力化	保護者の声を反映する仕組みの検討	教頭	キャリア・パスポート
5 カッパドウをつづける (コンソーシアムの持続化のため)	県事業、同窓会費やPTA会費の活用 ・コンソーシアムの方の検討	魅力化	1.2.3年生の総探カリキュラムの検討・実施 生徒がつけたいカのカのルーブリックの実施、分析 新たな独自科目(学校設定科目)の設置	主幹・魅力化	R2年度開講2年生対象「EAST国際交流基礎」「データサイエンス」 R3年度開講3年生対象「EAST地域探究」「EAST国際交流」「EASTブログラミング基礎」 R4年度新教育課程に向けて検討中「理科探究」等
			東高カフエの開催	生徒、エブリアン	「東高カフエ」の実施 持続可能な運営形態の構築
			サポーターの人材バンク作成	生徒、エブリアン、進路	人材バンクのフォーマット作成 (卒業生、サポーター人材等へ登録依頼、HP上でサポーター公開等)
			EAST NEWSの発行	魅力化	年5回程度
			スクールガイドの作成	魅力化	R3.5月 4500部印刷
			HP更新	魅力化	目標年間100回
			中学校説明会、オープンスクール	校長、魅力化、総務	中学校説明会でのPR、PR動画制作、オープンスクールの企画・運営
			デザイン統一(制服、HPと運動)	生徒、東雲会	制服に関する全校生徒アンケートを受けて諸規則(制服)見直し検討
			体制・資金に関する研究	事務、PTA、東雲会	コンソーシアムの体制検討 高校の教育活動における資金調達の事例調査
			会議の効率化の検討	教頭、主幹、事務	WEB会議システムの導入によるオンライン会議 複数の会議を併せて開催
			役員会の開催	教頭	年3回

(イ) 教育プログラム「地域共創人育成Project」

令和3年度 総合的な探究の時間「地域共創人育成Project」カリキュラム

目指す生徒像		自分らしいライフデザインの実現を目指す生徒												
研究開発名		持続可能な社会を創造する地域共創人												
研究開発名		中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成												
		「地域共創人」として生徒に身に付けさせたい力												
		主体的学習者としての力 探究的学習力 社会的自立力(キャリア形成力) 地域共創力(価値創造力) 多文化協働力												
1 年 生	行事	入学式/オリエンテーション等	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験/遠足		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式	
	行事						島大WEB訪問 学部学科説明会	県大パネル トーク/座談会	しまね大交流会 松江市長講演会	MATSUE探究 成果発表会 (1,2年合同)	松江市役所職員 との座談会	しまね探究 フェスタ発表会		
	枠組み	集団づくり		探究トレーニング①(スキル練習)				探究トレーニング②(スキル練習)		ガイド探究(スキル活用)				
	生徒に付 けたい力	主体的学習力		主体的学習力 探究的学習力				主体的学習力 探究的学習力 社会的自立力		主体的学習力 探究的学習力 社会的自立力 多文化協働力				
2 年 生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式	
	行事						島根大学 学部学科説明会		しまね大交流会	MATSUE探究 成果発表会 (1,2年合同)		しまね探究 フェスタ発表会		
	枠組み	フリー探究(チームでの実践)									ライフデザイン研究			
	生徒に付 けたい力	主体的学習者としての力 探究的学習力 社会的自立力 地域共創力 多文化協働力									主体的学習力 探究的学習力 社会的自立力			
3 年 生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭	総合型選抜出願	中間試験	推薦出願	期末試験/終業式	センター試験	前期	卒業式/後期	
	行事													
	枠組み	選択科目「EAST地域探究」 フリー探究(個人での実践)												
	生徒に付 けたい力	主体的学習力 探究的学習力 社会的自立力 地域共創力 多文化協働力												
3 年 生	詳細	オリエンテーション	エリカカ チームづくり	企業の魅力を探る (情報収集→個人でポスター作成→発表)				課題研究 (先行研究→研究テーマの決定→仮説検証→考察→ポスター発表)				ライフデザインを言語化する ～志望理由書を書いてみよう～		
	詳細			問い立て スキルWS			オンライン 企業訪問	LINE WORKS の活用開始	企業訪問 インタビューや アンケート等の実施	成果発表会 ポスターセッション	振り返り	言語化の ポイントを 探究する	これまでの経験を ライフデザインに つなげる	志望理由書模試
	詳細			キックオフ MTG			マダラート 社会・学術 分野キーワード		企業に提案・共有 フィードバック					
	詳細	オリエンテーション	先行研究 研究テーマ確定	フィールドワーク、インタビューや アンケート調査、WS等の実施	考察 まとめ	山陰探究対話/ 学園祭7イベント								

### (3) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について

#### ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け

カリキュラム開発等専門家

島根大学教職大学院 准教授 中村 怜詞(都度依頼し謝礼支払い)月3回程度来校

島根大学地域未来共創本部 准教授 丸山 実子(都度依頼し謝礼支払い)月1回程度来校

地域協働学習実施支援員

島根大学教職大学院 講師 松尾 奈美(都度依頼し謝礼支払い)月3回程度来校

島根大学教育学研究科 講師 大野 公寛(都度依頼し謝礼支払い)月2回程度来校

上記4氏ともに「松江東高校魅力化コンソーシアム」の下部組織「教育プログラムワーキンググループ」に属し、「地域共創人育成 Project」のカリキュラム開発を行った。

#### イ 活動日程・活動内容

カリキュラム開発等専門家

活動日程	活動内容
令和3年4月7日	第1回教育プログラム開発WG R2年度の振り返りとR3年度「総合的な探究の時間」実施計画詳細
令和3年4月21日	第2回教育プログラム開発WG 企業との関わりと実施内容について
令和3年5月6日	1年生総合的な探究の時間 指導助言 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年5月11日	2年生総合的な探究の時間 指導助言 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年5月20日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年5月25日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月1日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月2日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月8日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月10日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月22日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて

令和3年7月1日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月6日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月13日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月30日	第2回教育プログラム開発WG 本事業における役割分担の整理・確認と「総合的な探究の時間」への関わり方についての協議
令和3年8月31日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年9月2日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年10月12日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年10月19日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年10月20日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月2日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月16日	2年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年12月9日	MATSUE探究成果発表会における指導・助言
令和4年1月27日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和4年2月3日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和4年3月10日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 発表会の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて

#### 地域協働学習実施支援員

活動日程	活動内容
令和3年4月21日	第2回教育プログラム開発WG 企業との関わりと実施内容について
令和3年5月20日	1年生総合的な探究の時間に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて

令和3年5月25日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月1日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月8日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月10日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年6月22日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月6日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月13日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年7月30日	第2回教育プログラム開発WG 本事業における役割分担の整理・確認と「総合的な探究の時間」への関わり方についての協議
令和3年8月31日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年9月14日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 オンライン企業訪問の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年10月12日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年10月19日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月4日	1年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月9日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月16日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年11月17日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和3年12月14日	2年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて

#### (4) 校内組織について

##### ア 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「魅力化推進部」

【メンバー】教員 5 名＋学校司書 1 名＋高大連携推進員 1 名

###### ①主な業務

- ・文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」関連
- ・総合的な探究の時間の企画・運営 ・広報 PR ・ HP 関係 ・ 図書関連
- ・地域と連携した探究活動の推進

###### ②毎週部会を実施

- ・R3 年度実績 22 回

##### イ 学校全体の研究開発体制、進捗管理及び成果の検証・評価等

「魅力化校内連絡会」

【メンバー】校長、教頭、事務長、主幹教諭（兼 魅力化推進部長）、総務部長、  
教務部長、生徒部長、進路指導部長、高大連携推進員 計 9 名

###### ①主な業務

- ・「地域との協働による高等学校改革推進事業」の進捗管理
- ・総合的な探究の時間プログラム内容、教職員研修会、及び各種関係イベントなど  
文科省事業に関する事項の協議
- ・単位制移行に向けた準備
- ・広報 PR など魅力化に関すること全般

###### ②毎週会を実施

- ・R3 年度 実績 21 回

##### ウ カリキュラム開発に対する検討

「教育プログラム開発ワーキンググループ」

【メンバー】カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員、協力企業・団体等代表、  
魅力化推進部 計 6 名

###### ①主な業務

- ・「地域共創人育成 Project」のプログラムを研究、開発
- ・上記のプログラムにかかるコンソーシアムの役割の検討

##### エ 教育課程外におけるコンソーシアムの取組

「東高カフェ ワーキンググループ」

【メンバー】生徒部長、生徒会担当教員、本校卒業生の教職員、生徒（希望者） 計 6 名程度

###### ①主な業務

- ・「東高カフェ」を企画、運営
- ・企画に参加する地域の大人の選定及び参加生徒の募集
- ・当日の進行、アンケートまとめ

## (5) 運営指導委員会について

### ア 運営指導委員会の構成員

松江市副市長 能海 広明

関西大学教育推進部教育開発支援センター 教授 森 朋子

(有) お茶の三幸園代表取締役 大島 正也

(株) アテナ主席研究員 上田 泰子

地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本 悠

### イ 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月6日	第1回運営指導委員会 ・R1年度、R2年度までのコンソーシアム事業の振り返り ・本校のグランドデザインと評価指標について ・R3年度のプログラムについて
令和4年3月10日	第2回運営指導委員会 ・1年生探究学習成果発表会視察 ・R3年度の活動報告 ・R4以降のプログラムについて

#### 【第1回運営指導委員会 議事録】

#### 【質問】 グランドデザインの中のカリキュラムポリシー（CP）について

(A委員)

・松江北高・南高と違った東高の強み、東高だからこそ伸ばしていくべきところや方向性についてお聞きしたい。カリキュラムや育てていく力・生徒像というレベルでどのように見られているのか。

【回答】一番大きいのはめざす学校像。「地域連携で深い学びを実現する」ということだと考えている。また東高は「地域から評価されている学校」であると感じている。そこを基盤にしながらハート・志を育てる。そして教科の授業で、内発的な動機付けが行われるようなことを目指す。今後、東高を卒業していった生徒がフィードバックをしていく循環が作ることをめざす。

「リアルな体験ができる場が非常にたくさんある」のが本校の強み。例えば企業・団体の方も積極的に生徒の学びに入って下さる。また、島根大学をはじめ小学校や中学校も近いという地理的な強みがある。生徒たちの中にも小学校～大学をつなげる意識で企画を考えたり、異業種を束ね、クリエイティブな場をつくることができないかを考えている生徒もいる。プラットフォーム的な発想をできることが多い。社会と繋がることへのハードルが非常に低くなっており。探究が自分事になってきている生徒が出始めている。

#### 【質問】 グランドデザインの中のグラデュエーションポリシー（GP）について

(A委員)

・ライフデザインの実現・地域共創人という文言がでていますが、ポリシーと評価指標の関係性をどう解釈し意味を捉えたら良いのかを教えて欲しい。「出願した生徒の人数」ということがどういう意味をもつのか。「出願」よりも「合格」ということの方が、実現という意味においては大事ではないか。

【回答】管理機関である県教委が、本校の高大連携の伴走テーマとして、「島根大学・島根県立大学に進学する生徒を増やす」ということを掲げている。東高は「生徒の心を育てること」を大事にしている学校なので、まずは出願する。合格よりも「心」ということでこれにした。

**【質問】** グランドデザインの中のアドミッション・ポリシー（AP）について

（A委員）

・様々な活動に挑戦する志を持つ生徒」というのはいいと思うが、APと高校入試の関係性について教えて欲しい。「志を持つ」という言葉を新たに入れていますが、推薦入試などで志を図るような何かがあるのか。入試との関連性を教えて欲しい。

**【回答】** 推薦選抜入試の作文の中で「志」をみようと考えている。去年までは「挑戦する生徒」という文言だったが、挑戦するのは高校に入ってからなので、「どういう挑戦をしようと思っているのか」という具体的な思いを評価したい。

**【委員からの助言】**

（A委員）

・指標のところで、県教委の方針ということもわかるが、学校としてどのような意味を持っていくのかという意味づけやGPとの関係性が重要である。

**【委員からの意見】** 企業・団体と連携したプログラムについて

（B委員）

・商工会議所との事業である「キラ星共創プロジェクト」について。東高が発足して間もない頃より地域企業がこの「東高を応援したい」という取り組みをされてきている。現在もそういった気持ちが地域にあるのではと感じた。

（C委員）

・卒業してしばらくたつが、在学時から思うと意外な人たちがいま親の企業を継いでいる。「師弟同行」という言葉があるが、同窓会が立ち上がったころはまだ学校と協働するといった前例がなかったので、「生徒と一緒に創ろう」という気持ちが強かった。そのときを経験している人たちが今、同窓会の年長者として役員などを担っている。今だからこそその関係性が築ける可能性を追究してほしい。

・何かできることがあればみんなお手伝いをしたい気持ちがあるようだが、やりたいという想いはあっても学校や生徒との接点がない。一部の企業さんしか関わっていない。同「声かけられたらやるよ」と言っている同級生の企業人もいるが、こちらから取りに行かないと情報が入ってこない。

（D委員）

・民間企業は人的・時間的余裕がなかったりして、社内のブレンがいない零細企業もある。同友会に広く知らせるのは良いと思う。どういう企業が地元であり、どんな想いで仕事をしているのかを生徒に伝える機会があるのは良い。

（B委員）

・学校の活動の協力者の人材バンクを設立することについて。同窓会の活用が有効と考える。生徒が知っている職業はほんの一部だが、産業分類や職階も掛け合わせると世の中にある仕事はものすごく多い。

**【質疑】** 学びの成果について

（E委員）

・学習研究の立場から見ると良いことやっているのは重々分かっているが、それで生徒がどう育っているのかのイメージがわからない。教科教育のこともGPにも入っているが大丈夫か。また、「探究は自分の専門じゃないから」と困っておられる先生の声も聞く。ファシリテーションスキル等を伸ばす教職員研修は行われているのか。活発なところは承知しているが、デメリットや課題感を共有していただきたい。

【回答】探究にかかる深い教員研修は行っていない。おっしゃった課題に対して学校現場で苦しいのは、抱えていることが多すぎて、先生方も身を削っておられるが考えて工夫して授業に取り組む余裕がないことである。

授業改善は働きかけているが、学校全体として全員が取り組んでいるかという点についてはまだ十分ではない。島根大学の先生型に対してオンラインを活用したで授業公開を実施した。新しい発見や改善に繋がるのではと考えて実施している。またアクティブラーニング型の授業も増えている。グループ活動やペアワークを取り入れ、ICTも活用しておられる先生方もたくさんいる。しかし、探究的な学びを授業の中にどのように展開していくか 取り入れていくかということに関しては課題として残っている。

【質問】 探究学習と教科学習について

(A委員からE委員へ)

例えば探究と教科学習の連携や往還、教科の学び自体の質的転換、教員の授業力をより高めていく上で何が大事か。あるいはこういう取り組みの中で教員の力が上がっていき、教科の学びと探究の学びを紐付けながら教科自身が変わっていく、というような知見やポイントがあれば教えていただきたい。

【回答】 (E委員)

カリマネだと考えている。報告を聞いていて、カリキュラム・マネジメントがきちんとできているのかが、すごく気になる。生徒はひとつのもので育つのではなくカリキュラムで育つ。例えば東高のカリキュラムが総探を「軸」にして教科などいろんなものが繋がっているようなカリキュラムなのか、総探と教科教育がぷつぷつ切れているのか。生徒たちは両方を学ぶので、合わせて目標を達成するのかといった、そういう道筋が見えない。

今、いくつかの高校でアドバイザーとして関わっており、そこでは探究をベースにそこからどんどん教科に繋げているところと、そうではなく、探究は探究でしっかりやるが教科はしっかりと教え込むという学校もある。どちらが正解、ということはない、今回、CPやGPを聞かせてもらったが、どういう構造になっているのか。どちらでも構わないし、何が良いという正解はない。学校としてトータルなカリキュラムでどんな風に生徒たちを育てていくのか、ということがGDであり、それがカリキュラムにしっかりと落とし込まれている必要がある。

教員研修については、やはり先生方の負荷が大きいのだと推察する。いろんなことをされている中で、これ以上何かを担うのが限界だと思っている。今日は県教委のお方もおられるので、前回も話したように第三の職種の方たちをどうやって入れていって、どういう風にカリキュラムの成功を支援していくのかという話が出ていくのかと思っていたが…。また先生方の負荷が増えているような形になってしまっているのかなと感じる。

(第三の職種とは) 地域の方であっても、その方々が学校で授業ができる、あるいは学校でいろんな授業をコーディネートするといった形の職種がそろそろ文科省でもでてきている。A委員もご存じのように、地域コーディネーターもその走り。探究コーディネーターも出てきている。そういう方々に全てをお任せしますということではなく、そういう方々が先生方と一緒に、教育目標を達成するために何ができるかということと同じ目線で考えていくというのが、私のイメージ。たとえば松江東高独自の〇〇コーディネーター、〇〇アドバイザーという方を任命して、授業をそのまま担当いただけるようなシステムも面白くて良いかと思う。

(A委員)

それに繋がる人が4月から入られた高大連携推進員の役割なのかなと考える。期待している。

### 【質問】 高大連携について

(A委員)

・島大のアドバイザーを今年度担っておる。今回の高大連携、島大との連携もあると思うが、何をしたいのか、大学側に何を期待しているのか。こんな風になると、お互いにウィンウィンになれる、というヒントがもしあれば教えていただきたい。

【回答】 個人的には、高校側の教員が授業公開して大学の先生に見ていただき、その繋がりを通して生徒が大学の授業をオンラインで受けられれば。そのあと生徒が試験を受け、受ければ高校側の増加単位として認定する。その子が島根大学に入ったらその単位が大学に進学したあとで認定されれば、高校と大学の学びが発展的に繋がるのでは。その先駆的な学校として、島大に近い東高がなれば。大学入試を待たずに大学の環境にふれられる。

大学の学びの中には、学術的な学びだけではなく、地域社会をどうしていくかという学びもある。芸術的、体育系の学びもある。そういう学びを生徒たちが受けられる可能性が高校にあれば、高校に対する想いも俄然変わってくるのではと思っている。

### 【第2回運営指導委員会 議事録】

#### 【質問】 生徒の活動についての評価について

(A委員)

・ループリックの作成は素晴らしい。生徒自身の成長の実感が素晴らしい。一方で、教員から生徒のパフォーマンスを評価する方法があるのか？

【回答】 授業での見取りやワークシートによる評価の実施。教員研修での情報共有の際、教員が求める生徒の成長してほしい部分と生徒が伸ばしたいと思うものが一致しないことのほうが多いことへの気づきがあった。今後、教員からの評価と生徒の自己評価をすり合わせる方法について研究したい。

#### 【委員からの助言】

(B委員)

- ・学びの変容、学校の在り方も変化していく過渡期に、教員も探究していると感じる。
- ・(成果発表会を参観して) 生徒はちゃんと活動していると感じた。一方で、活動の目的が生徒に落ちているか、「わくわく」につながっているのか疑問。担当している教員自身の腹落ち、「生徒にどこまでできるようになってほしいのか」を理解が大切。
- ・キラ星の活動や本日の総合探究など素敵な生徒がぼつぼつ出てきているのを感じる。とても良い前進をしていると感じている。

(C委員)

- ・地域につながる人材を作るには、非常に良い取り組みだと感じた。一方で、生徒に直接話をしたところ、最終的に島根に帰りたいと答える生徒はそれほど多くなかった。
- (学校) 県外へ出た生徒がいかに島根に想いを馳せることをさせるかを模索したい。今年度卒業した生徒に対して、県内だけでなく県外に進学した生徒についても、卒業後に本校の活動に関わるための人材バンクを作成している。

学校運営協議会に卒業生を加えたい。地域の公民館や島根大学などのコミュニティも利用しながら、多岐にわたるつながりを作る仕組みを作っていきたい。

(B委員)

・来年度の「地域共創人育成 Project アドバンスト」の構想が、本当の意味で社会に開かれた教育改革ではないかと思う。おもしろい企業の方と(企業説明会のような形ではなく)一緒にかかわることが東高の強みになるのではないか。卒業生会がもっと主体的にかかわるといいのではないか。地元大学で教員免許を取る学生が関われる仕組みづくりも有効。

(D委員)

卒業生会として、もっと次の世代の活動を見たいと感じる。

### 【その他の地域の参加者（コンソーシアムメンバー）からの意見】

- ・公立高校の特色化のために音頭を取ったが、本日の授業見学において、生徒と教員の能力の向上を感じた。3年前にはここまでの想像をしていなかった。ここで得た力（仮説たて）は社会においても重要なものである。
- ・課外の活動を含め、東高の生徒が本当にやりたいと思っていることをやっているなあと感じる。授業と校外プロジェクトの生徒の姿が違ったので、普段の授業でも変化が見えるといいなと感じる。教員も楽しみながらとりくんでほしい。
- ・高校生が今学んでいることがなになににつながるのかを理解することが重要だと思う。子供たちがなになにを学びたいのかを知ることが大事だと思う。
- ・地元への貢献の仕方がわからない生徒も多いのではないかな。高校生のうちからこのような経験ができることで解決するのではないかな。

## 2 研究開発の実績

### (1) 「地域共創人育成 project」カリキュラム開発

#### ア 科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習

##### ① 目的

本年度は一年次・二年次の成果と課題を踏まえ各単元のねらいを明確にして『松江東高校の魅力探究』『学問の魅力探究』『松江市の魅力探究（MATSUE探究）』を実施した。

##### ② 活動と振り返り

	松江東高校の魅力探究	学問の魅力探究	松江市の魅力探究 (MATSUE探究)
時期	4月～9月	9月～12月	12月～3月
主なねらい	・チームでの協働 ・情報の収集 ・発信方法の工夫	・学問への興味と理解 ・情報の比較 ・多様な人との関わり	・テーマの設定 ・実情把握と内容検討 ・課題や問いの設定

本校2年生が発表を行ったMATSUE探究成果発表会に参加し、生徒たちは探究活動のあり方を具体的に学ぶことができた。過去2年間のカリキュラム開発の成果として計画された年間活動計画に基づきつつ、生徒や教職員の実情に合わせながら、新たな教材開発を工夫しつつ探究学習を進めていった。

#### (ア) 松江東高校の魅力探究

- a 4月から5月にかけて「チームでの協働」の基盤となる協調的マインドセットを実感させるための活動を行った。初回は、チームを作り自己紹介シートを用いて、自己の考えや思いの言語化をしつつ他者に伝えることや他者の考えや思いを踏まえたチームの在り方を考えさせた。2回目は、演劇型議論ワークショップを行った。このワークショップでは、配付されたカードに示された役割と態度を演じながらテーマについて話し合うなどの活動を行い、役割や態度が話し合いにどのように影響していくのかを考えさせた。そして、3回目に、前2回の活動をチームとして振り返ることで、今後チームで活動していく際には、どのようなことに



意識をもちながら進めていけばいいのかを考えさせつつ、協調的  
マインドセットを醸成させた。

- b 5月中旬から7月にかけて「松江東高校の魅力探究」をテーマ  
として、「情報の収集」や「発信方法の工夫」を考えさせながら  
活動させた。まずは、動画やポスターといった様々なアウトプ  
トのための方法に触れながら、発信方法の設定をさせた。次に、  
松江東高校の魅力にどのようなものがあるか、その魅力を伝える  
にはどのような素材を準備すればよいかに視点をおかせながら  
「情報の収集」を確認させていった。入学間もない1年生にとっ  
てこれから過ごしながらかんじていく魅力を伝えるという難しいテ  
ーマであったため、生徒は生徒会誌や学校紹介のパンフレットや  
動画などを調べ多くの情報に触れた。その情報から自分たちなり  
に必要な情報を整理していくことで、自らの興味や関心につな  
がる情報を収集する意欲や態度を身に付けていった。

- c 集めた情報をどのような形で発信していくのか、ポスターや動  
画などの編集を通して、よりよく他者に伝えるための「発信方法  
の工夫」を行っていった。スケジュールや内容の都合上、グルー  
プによっては、当初予定していた発信方法を変更するなど、計画  
を軌道修正しながら活動する力も自然と身に付けていった。ま  
た、ポスターや動画などを完成させるための素材(情報)が不足し  
ていると気づけば、さらなる素材(情報)を収集するなど、完遂す  
るための意欲ある行動力の育成もされていった。活動当初は、戸  
惑いを見せていた生徒も活動を経るごとに、チームで協働するこ  
との良さや課題、情報をいかに集めて、どう発信していくかを体  
験的に学習し身に付けていくことができた。

- d 完成したポスターや動画などを、クラス内で発表し合い、代表  
グループが学園祭で発表する機会を設けることで、責任感や達成  
感をもたせていくことができた。活動のまとめとして、本事業の  
指導・助言者である中村怜詞先生(島  
根大学教職大学院 准教授)に「探究す  
るのは何のため?」と称してリフレク  
ションを行っていただき、これまでの  
学びの成果を実感させつつ、次の探究  
学習にどのように取り組んでいくかを  
考えさせる機会を設けた。

#### (イ) 学問の魅力探究

- a 9月から12月にかけて、「自らのあり方や生き方」につな  
がる探究学習を進めていく基盤づくりのため、学問の魅力に触れな  
がら「学問の理解」を深めるための活動を行った。まずは、島根



大学主催事業「WEB大学訪問」を活用し、進路希望調査と関連付けさせ、訪問学部を選択させ、島根大学の各学部の特徴を知りつつ、大学で行われる学問に触れていった。次に、島根県立大学松江キャンパスの先生方や学生に来校していただき、学問の魅力や大学での学びについてのパネルトークを実施していただいた。また、希望する学部の先生や学生から直接話を聴いたり質問する機会を設けた。このイベントではICT環境を生かし、出雲・浜田キャンパスの先生や学生にもオンラインで参加していただき、より多様な学問に触れていった。校外の人と関わりながら学ぶ貴重な機会とすることができた。



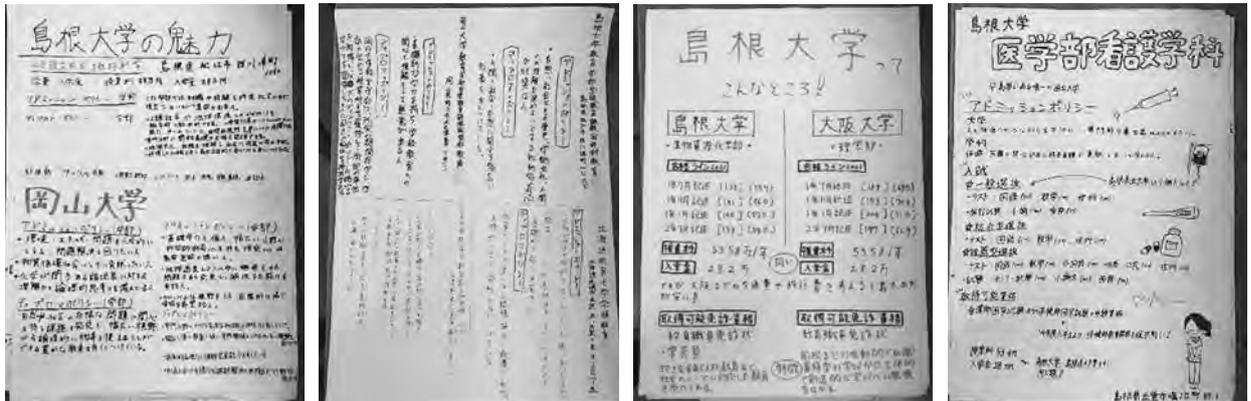
b 島根大学と島根県立大学で学ぶことができる学問をもとに「情報を比較」し、それぞれの強みや特徴をつかみとる力を育成させていった。各大学からいただいたパンフレットを利用することで、複数の資料から取捨選択しながら必要な情報を獲得することを自然と身に付けることができた。さらに、自らが選んだ大学で行われている魅力的な研究だけでなく、合格するために必要な学力、アドミッションポリシー、入試での受験科目なども調べ比較させることで、大学進学に向けた目標を明確にさせ、冬に迫った文理選択につながる情報も収集させた。これにより、自らの生き方を関連させ探究学習を進める観点をもたせることができた。また、自らの進路に関わり興味関心がある学問を対象とすることを利用し、クラスの枠組みを外し、学年全体でグループを構成し活動を行った。普段とは異なる人間関係で活動していくことを通して、他者と協働して活動する力のより一層の向上を図った。



c 活動のまとめとして、各自で調べた大学ごとの情報をグループで集約させ、各グループでレイアウトを工夫させ、大学や学問の違いが伝わるポスターを作成させた。アドミッションポリシーに焦点化し比較したり、国語教育の魅力伝えるため縦書きを採用したり、模試での目標点を比較し客観的なデータに基づき違いを示すなど、グループごとの工夫が随所に見られるポスターを作られていた。完成したポスターを廊下に掲示し、掲示されたポスターを互いに見ながら振り返りを行ったところ、生徒たちは、真剣にポスターを見てメモをとっており、自らが調べた学問以外の学



問についても知る機会とすることができた。大学の先生や学生、他クラスの生徒との活動を通して、普段関わりのない人との学ぶことの意義を自然と感ずることができる探究活動となった。



(ウ) 2年生MATSUE探究成果発表会

12月に松江くにびきメッセで行われた本校2年生による「MATSUE探究成果発表会」では、2年生の成果発表を聴講し1年後のゴールイメージを具体的に持つことができた。発表会の1週間前には、聴講予定のグループの資料を事前に見ることで、予備知識を得るとともに質問事項を検討する活動を行った。発表会当日には、発表内容の深さや発表方法の工夫や姿に感銘を受け高い意識をもつ1年生の姿に成長していく期待を抱くことができた。また、事前に用意した質問だけでなく、発表に応じた感想を述べ質問をする姿に1年間の成長を実感した。



(エ) 松江市の魅力探究 (MATSUE探究)

a 11月に、上定昭仁氏 (松江市長) にご来校いただき、松江市の魅力や課題、市長の将来ビジョン等のご講演いただいた。興味深い内容と講演の巧みさに生徒は集中して聴講していた。講演会の最後の質疑応答では、生徒が講演の予定時間いっぱいまで質問をしており、意欲の高さを感じられた。「課題×魅力 (松江市の課題を松江市の魅力を生かして克服しようとする)」ということが印象深い講演であった。この講演会をきっかけに12月から3月にかけて探究活動を行っていった。



b まず、12月に自らの進路(文理選択)や興味関心と関連させながら、学校で設定した松江市に関わる8つのコースの希望調査を行った。希望をとったコースについて、冬休み中にSDGsとの関連や松江市の基本施策との関連を調べさせておいた。冬休み明けに、希望調査をもとに新たなグループで冬休み課題の共有を行った。この活動では、自らの興味関心と関連したテーマ設定を行わせるとともに、現代社会での諸課題に意識をもたせることに重点を置いた。





c 次に、探究活動における「研究テーマ」「リサーチクエスト」「仮説」の意味を知った上で、グループでの共有事項を2つのキーワードにまとめさせ仮の研究テーマを立てさせた。研究テーマからリサーチクエストに発展させていくためには、問いの質や量がポイントとなるため、問いの種類を確認させた上で、そのテーマに関する問いを数多く出させていき、調査見込み



時間（横軸）と調査方法（縦軸）とで整理させた。その後、この問いに対する答えとなるであろう情報を獲得させるため次の2つの活動を実施した。1つは、8つのコースに関連する松江市役所内の担当課やしまね大学とオンラインでつながり、コースに関わる知見を獲る機会である。もう一つは、インターネットや学校図書館の参考図書を調べる活動である。この活動にあたり、直近のHR活動では、学校図書館で参考図書を使った調べ学習のあり方を学ぶ機会を設けておき、HR活動での学びが総合的な探究の時間の学びに生かせるようにカリキュラムを工夫した。



d 最後に、問いに対する答えを整理しつつ、問いをさらに発展させていく活動を行った。問いを発展させていくことで、仮の研究テーマについて、対象の焦点化や内容を具体化することでリサーチクエストを立てることを目標とした。そして、リサーチクエストに対する仮説を考察させていきながら、課題研究を進めていく上で、重要な点であり「課題の設定」をいかにして進めていくのかを体験的に学ばせた。3月中旬には、何を根拠に「研究テーマ・リサーチクエスト・仮説」をどのようにして設定したのかをグループ相互で確認する機会を設けた。これらの活動を基盤とし、2年次に「MATSUE探究」を進めていく予定である。

### ③ 成果と課題

#### 成果

生徒については、3つのプログラム（「松江東高校の魅力発信」、「学問の魅力探究」、「松江市の魅力探究」）それぞれで、以下の「身につけさせたい力」を意識しながら、活動ができた。

- ・松江東高校の魅力発信＝目標に向かいチームで協動的に活動していく力
- ・学問の魅力探究＝自らの興味関心をもち、2つ以上の対象を比較検討する力
- ・松江市の魅力探究＝問いや仮説を立てる力

プログラムごとに毎回メンバーを替えながら、年に3回プログラムを回すことで、チームで協働していくことが自然とできるようになり、なかにはチーム全体の活動の調整を行うなど、各教科の授業では見ることがないような姿を見せる生徒がいた。活動後の振り返りシートにおいても、その表現に成長が見られた。

教職員について。年度当初は主担当の教職員が全体に指示をしながらの活動が多かったが、指導計画を事前に知らせることにより、それぞれの教員の指示での活動が多くなり、生徒たちの活動に多様性が生まれる指導ができるようになった。

### 課題

一つ一つの活動時間（12時間程度）で探究のサイクルを回した一方で、十分に探究的思考の深めさせる指導ができなかった。年間の大まかなプログラムは決まっているが、各プログラムの中身は、各年度の担当者の裁量になっているため、生徒の実態に応じた柔軟な内容に出来る一方で、定型的な内容がないため一つ一つの活動を練り上げ目線をあわせるための教員の時間の確保が難しかった。

## イ 科目「総合的な探究の時間（2年生）」における探究学習 「地域企業・団体との協働による課題探究実践プログラム」

### ① 目的

松江市に所属する企業や団体と一緒に「地域社会が抱えている課題について考え、解決策を提案する」という活動を通して、自らより良い社会を創造していくことができる資質・能力を育成するとともに、地域の「ひと・もの・こと」に興味・関心をもつことができるよう促す。

### ② 活動と振り返り

各クラスごとに4～5人のチームを作り（合計46チーム）、松江市にある31企業・団体と生徒の探究チームとのマッチングを無作為に行った。

各時間の軸となる学習活動や活動の順序などは担当部署である魅力化推進部の教員が考案した。各週学年部の教員と活動内容の共有を行った後、クラス単位で指導を行うことを基本とした。学年部の教員12人を各班に割り振り（1人あたり4チーム）、生徒の活動に対する指導・支援を行った。

### 1学期

次	時	単元	学習活動	身につけさせたい力
1	2	オリエンテーション	○自分について考える(ルーブリック表に基づく) ○1年間の流れを確認する ○チームビルド・アイスブレイク	自分を知る力 他者を受け入れる力
	1	地域について知ろう	○地域で働く人の講話を聴く (モルツウェル株式会社 野津 積 氏)	地域と関わる力
2	2	企業・団体について知ろう	○インターネットで企業・団体について調べる ○「問い」のデザイン 講義	主体的に行動する力

	2	スタートアップミーティング	○企業・団体の「魅力」と「課題」を直接聞く	地域と関わる力 自分の生き方を考える力
3	6	企業の「魅力」を伝えよう (個人型ポスタープレゼン)	○集めた企業・大体の情報を整理する ○企業・団体の「魅力」を伝えるポスター(A3)を作る ○3分で発表する(個人)	伝える力 情報処理能力 主体的に行動する力

(ア) 地域の企業・団体等の魅力探究

a 1学期は「地域や企業・団体について知ること」と「情報処理能力」に焦点を当てて活動を行った。第一次では、探究活動を始める事前準備として、昨年度の総探の振り返り、身につけている力と不足している力の確認(メタ認知)、チーム活動のためのアイスブレイクなどを行った。

第二次では、まず地域の現状や企業の実際の様子「地域の魅力ある大人」と探究活動をすすめていくイメージを得ることを目的に、本校コンソーシアムメンバーでもあるモルツウェル株式会社の野津積氏に講演を行っていただいた。次に、本活動に協力していただいた31企業・団体の担当者の方に直接話を聞く時間(スタートアップミーティング)を設定した。生徒は自分たちが関わる企業・団体の仕事内容、さらに企業・団体の「魅力」と「課題」について知った。これらの活動を通して、自分が住んでいる地域や地域の企業・団体に興味をもつきっかけづくりができた。



第三次では、「伝える力」と「情報処理能力」を育成することを目的に、個人で企業・団体の「魅力」を3分間で伝えるプレゼン発表を行った。「A3用紙1枚で3分」という条件を設定することで、獲得した多くの情報から、伝えたいことを伝えるために本当に必要な情報を厳選するなどといった情報を扱う力の育成を図った。個人発表の形式を選択した理由として、「生徒全員が主体的に動いて欲しい」という理由が挙げられる。このねらいについては、準備や発表の様子、指導助言者である島根大学の先生方からの評価言、そして生徒の自己評価(資料1)の様子から、概ね達成することができたと考える。



(資料1)

個人での作業が多かった分自分だけのために最後まで頑張ることができた。そして、一人でやることのいい経験になりました。自分が伝えたいことなどの上で、どう伝えるのが、正しい情報の選り方も考えることもすることができて良かった。

2 学期

次	時	単元	学習活動	身につけさせたい力
1	2	探究活動の準備	○「探究研究とは」 講義 ○ 企業訪問の準備	論理的に考える力 主体的に行動する力
2	4	研究テーマを決めよう	〈自分キーワード〉 ○マンダラートシートで自分の興味・関心を知る 〈社会・学術キーワード〉 ○SDGs について資料を使って考える 〈企業キーワード〉 ○各班オンラインで企業インタビューを行う。	自分について知る力 論理的に考える力 主体的に行動する力
3	2	仮説と研究計画を立てよう	○先行研究・先行事例を調べる ○仮説をたてる ○研究計画書を作成する	論理的に考える力 諦めず追求する力
4	7	仮説を検証して企業に結果を報告しよう	○仮説を検証する ○検証結果と考察を企業に報告する ○研究についてまとめる	諦めずに追求する力 論理的に考える力 伝える力 地域と関わる力
5	6	課題研究の発表準備	○ポスター・原稿作成 ○発表練習	主体的に行動する力 諦めずに追求する力
6	7	研究成果を発表しよう (MATSUE 探究成果発表会)	○ポスターセッションを行う	伝える力
7	1	活動を振り返ろう	○振り返りシートで振り返りを行う	自分を知る力 論理的に考える力 自分の生き方を考える力

b 2 学期は実践的な学びを通じての「探究スキルの獲得」に焦点を当てて活動を行った。この活動は地域の企業・団体と協働して課題解決に取り組む内容を取り扱っており、本校の特色的な探究活動として位置づけられている。

第一次では、2 学期の活動の根幹となる「課題研究」そのものについて理解を深め、「課題探究」とは何か、自分たちが何をどの順序で実施するかについて学んだ。

第二次では、研究テーマの決定を行った。研究テーマ設定時のポイントの1つとして、「研究テーマをいかに自分事として捉えられるか」ということが挙げられる。今回は、3つの異なる観点からキーワードを探し出してからそれぞれの観点が考慮された研究テーマを設定した。(資料2) このように研究テーマを設定することで、生徒が当事者意識をもって探究活動を行えるのではないかと考えた。キーワードを探し出す具体的な活動として、①わたしマンダラート(資料3)、②SDGs 学習、③企業インタビューの3つの活動を行った。①では「自分の興味・関心」を、②では「社会や

(資料 2)

地域が抱えている課題」を、③では「企業・団体の得意分野や仕事内容」をそれぞれ見つけ出すことを目的とした。以上のような過程で研究テーマ設定を行ったことで、「土曜補習をリモートにする」「小学生と高校生の連携授業」などといった、自分達の身近な課題感から研究テーマを設定するチームが複数あった。

第三次では、研究テーマと先行研究・事例から仮説を立てる活動を行った。その後、研究計画書を作成させ、最終発表までの見通しを持つよう促した。活動が停滞したときに研究計画書を基に軌道修正を図っている様子が見受けられた。このことから、研究計画書の作成が生徒の活動の支援につながるということが分かった。

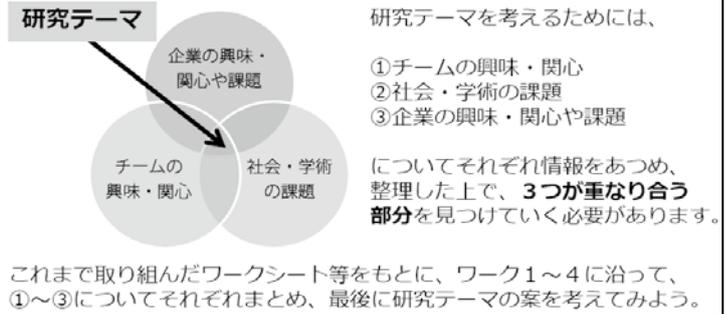
第四次では、仮説の検証と結果の考察を行った。アンケートで検証する班、動画を作成する班、実際に実験して検証する班などがあった。多様な検証方法の中で、本年度はアンケートによる仮説検証の形を選択する班が多かった。初めにアンケートを行った班が生徒を対象に実施したことが他の生徒への動機付けになったようである。しかし、安易にアンケートを実施する班が多く見られた。「アンケートの目的」「どんな結果を予測して」「誰をどんな理由から対象にするのか」などがよく分からないものが散見された。これは、指導する側の教員が社会調査やアンケートの意義・手法について知らない、あるいは生徒に正しく指導できていないなどといったことが原因である。本校の3年間の探究活動における各班の検証事例を見ると、アンケートで検証する事例が多い。これらの事実を考慮すると、指導する側の教員が調査分析の手法について正しく理解し、生徒を正しく導くことができる力を身につけるべきであると考えられる。

第五次では、ポスターセッションのための準備を行った。1日(1~6限)まとめて時数を確保することで準備を集中的に進めることができた。一方、後半に生徒の集中力が欠かれていた場面も見受けられた。今回のように1日でまとめて何かを実施する場合、活動が間延びしてしまわないように、生徒にやることを的確に指示することが必要不可欠である。

第六次では、ポスターを使って発表会を行った。(MATSUE 探究成果発表会) 全46班がそれぞれ在校生(1,2年生)や大人(企業・団体の方、大学の先生方、高校の教員など)に対してポスターセッションを行った。8分で発表、7分の質疑応答の計15分で発表を行った。この発表を各班3回ずつ発表を行った。ポスターの内容は1学期の活動で身についた「情報処理能力」が活かされている様子が見受けられた。(全体像が見えるタイトル、必要な情報だけポスターに記載するなど) また、発表会当日にも関わらず、ポスターを修正したり、原稿を覚えようとするなどといった「諦めずに追求する」様子も多く見受けられた。

第七次では、活動全体の振り返りを行った。「身についた力」と「その場面」をなるべく具体的に生徒が言葉で表現できるよう、振り返りシートを作成した。(巻末参考資料①)まず約30個の項目について「〇〇の瞬間があった(またはなかった)」のか振り返らせた。次に、それらの瞬間がそれぞれどんな力(ルーブリック表に基づく)の獲得につながっているのかを確認させた。以上の2つの段階を経て、生徒は「身についた力」と「これから身につけたい力」について文章でまとめた。

12月9日のMATSUE探究成果発表会に向けて、これからチームで取り組む課題研究の研究テーマの設定を進めていきます。

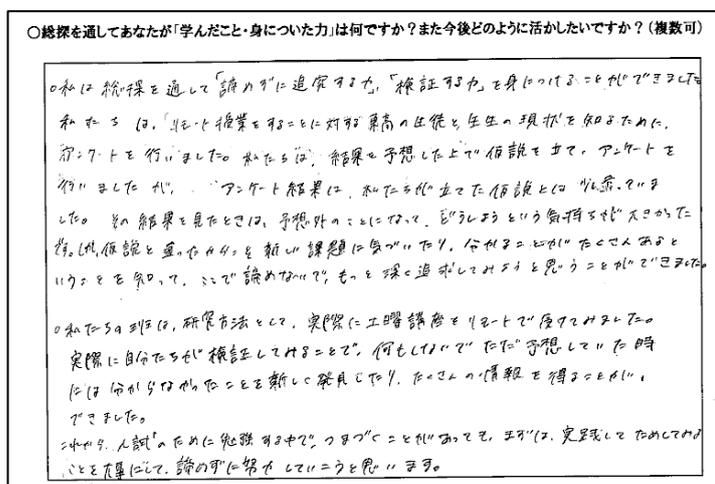


(資料 3)

体を動かすのが好きだから		皆で1つの目標に向かって努力するのが好きだから
部活で練習をしており、上達するのが楽しい	例 <b>バレーボール</b>	チームワークやリーダーシップを学べるから
チームスポーツが好きだから	皆で1つの目標に向かって努力するのが好きだから	

1学期の振り返りよりも具体的かつ後から見直したときにも振り返ることができる文章が多く見られた。(資料4) 振り返りをする際、「場面」や「瞬間」を思い出させることは、具体的な振り返りの文章を作ることにも効果的であると考えられる。これらの「振り返り活動」については、p. 58 に資料掲載。

(資料4)



### ③ 成果と課題

#### 成果

活動を通して、生徒の「主体的に行動する力」と「諦めずに追求する力」が向上している瞬間を多く見ることができた。これらの力は自らより良い社会を想像していくために必ず必要となる資質・能力である。「1回やってみて上手くいかなかったが、諦めずに追求した結果、満足のいくものができた」という振り返りをする生徒が多かった。このような辛いことを乗り越えた後の成功体験は、部活動や勉強ではもちろん、生徒の生き方に大きな影響を及ぼすのではないだろうか。また、このような力を発揮することができた班の様子を見ると、「自分の関心があること」を上手く研究テーマとして設定できていたようである。研究テーマに自分の興味・関心が含まれていると、生徒は主体的に行動できるということも再確認できた。

地域の「ひと・もの・こと」に興味・関心をもつことができるよう促すことも本活動の目的の1つであった。この目的を達成できていると感じる生徒の様子や感想が多く見受けられた。活動当初、興味がなさそうにしていた生徒が「僕たちはエネルギーの利用について研究しているんですよ」と嬉しそうに話してくれたことが印象的である。話を聞くと担当教員や関わった企業の担当者の方と話すのことや話を聞くことが面白いと感じたようであった。普段の授業では関わることがない地域の人々と話す経験や、地域の資源を題材として扱うことは、生徒自身がまだ知らない分野に対する興味を引き出すきっかけになるのかもしれない。その際、「大人が楽しそうに話している・やっている」ということが重要なポイントになるようである。

また、コロナ禍により地域へでかけてのフィールドワークの実施が難しかった分、オンラインツールを積極的に活用し、生徒と企業等とが直接つながる工夫を行った。コミュニケーションアプリ「LINE WORKS」を活用し、教員の安全管理ができる状態で、生徒と企業等とがメッセージをやりとりできる方法を実施した。その結果当初目的とした生徒と企業等とのコミュニケーションだけでなく、進捗状況や高校生への伴走の仕方について企業同士がお互いにコミュニケーションとる「場」としても機能した。高校生を中心に、異業種のつながりが生まれる機会となった。



## 課題

生徒が「探究心」を持って活動に取り組むことができるよう授業を構成していくことが今後の課題である。与えられた課題に対しては主体的に行動をする姿が多く見られた。これは上記で記した通り、大きな成果である。しかし、「もっとよくしたい」、「〇〇をしたいんですけど」などと生徒自ら探究を深めようとする様子はあまり見られなかった。これには2つの原因があると考えられる。

まず、設定時数が生徒の進捗状況に対して足りなかったことや、新型コロナウイルス感染拡大の影響から活動が校内に限定されたことなどの授業構成に関する原因がある。このような授業構成に関する問題を解決するために、校外外で綿密に連携をとり、なるべく早い段階で年間の活動計画を立てることが必要である。本年度は年度当初に引き継ぎを行なったが、このようなスピード感では計画を立てるのが間に合わないということが分かった。次週の活動を考えるのがやっとなり、全体を通して計画を立てることができなかった。担当の分掌や学年部の教員を中心に活動の振り返りを行い、次年度の計画を考える時間を多く設ける必要がある。無理なく活動することができる活動計画を立てることで、生徒はゆとりをもって探究することが可能になる。

2つ目は、生徒が「地域」や「企業・団体」を自分事としてとらえることができていなかったという点である。これも新型コロナウイルスの影響により企業・団体訪問を十分に行うことができなかった。「自分の目で見て・感じる」ことが興味・関心を高め、そして探究心につながっていくという観点から、なるべく早い段階で生徒を外に出すこと(企業訪問など)が効果的であると考えられる。また、生徒が興味を持つ題材を取り扱うことも重要であるということが分かった。本年度は「自分が興味のない分野について知る機会にして欲しい」という学年部の意向を尊重し、希望を取らずに教員がマッチングする企業・団体を決定した。しかし、「好きなことだったら頑張れるんですよ」という生徒の言葉を聞く場面が何回かあった。生徒の「もっとやりたい」という探究心を尊重するために「どのようなテーマをどう探究させるのか」については教員が十分吟味する余地があると感じた。「もっと探究したい」という生徒の気持ちを重視するのであれば、探究する内容は生徒主体で決定

するのが良いのかもしれない。

以上のことから、「ゆとりを持った年間活動計画の作成」と「生徒の興味・関心に寄り添った内容を取り扱うこと」の2点を改善することができれば、生徒が「探究心」を持って活動に取り組むことができると考える。来年度にむけての改善点とする。

## (2) 文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究

### ア 学校設定科目「データサイエンス」の研究開発

- ・令和2年度より開講
- ・指導助言 島根大学教育学部 御園真史 准教授  
数理・データサイエンス教育研究センター 瀬戸和希 助教
- ・指導内容 前半はデータ処理や分析、統計学の基礎について学んだ。また、島根大学の先生による講義を受け（2回）、データ分析についての理解を深めた。後半は、オリンピック選手のデータを題材に「PPDACサイクル」に沿った分析を実施し、成果をまとめて発表した。その後、個人で興味関心のあるテーマを設定し、自らデータを取得・分析を行い、その結果を発表した。
- ・内容の取り扱い及び指導計画

	学年・学科・コース等	第2学年・普通科・文系
	単位数	2単位
	授業担当者	古藤昭弘（水師敏樹・大屋えりか）
科目の目標	統計学、数学などに関連して、大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出す処理の手法、また活用の仕方について学ぶ。	
学習の到達目標	① 基礎的な統計学について理解する ② データの分析、統計的処理を実践することができる	
使用する準教科書	「数学I Standard」（東京書籍） 「数学B Standard」（東京書籍）	



### イ 学校設定科目「EAST 国際交流基礎」の研究開発

- ・令和2年度より開講
- ・指導助言 島根大学教育学部 大谷みどり 教授
- ・指導内容 年間を通じてペアやグループの対話、ディスカッション、および発表活動等をおこない、国際交流において基盤となるスピーキング力、プレゼンテーション力等を高めることとする。

	学年・学科・コース等	第2学年・普通科・文系
	単位数	2単位
	授業担当者	英語科教員
科目の目標	英語での様々なコミュニケーション活動、発表活動を通じ、特に表現力とコミュニケーションへの意欲を高める。同時に島根大学の留学生を招いたグループ学習で異文化に対する理解を深める。	
学習の到達目標	発表活動を通じて英語による表現力をより高める。ディスカッション活動などを通じて思考力・理解力・判断力をより深める	
使用する準教科書	「VISION QUEST 英語表現 I Standard」(啓林館) 「LANDMARK コミュニケーション英語 I」(啓林館)	



#### ウ 学校設定科目「EAST 国際交流」の研究開発

- ・令和3年度より開講
- ・指導助言 島根大学教育学部 大谷みどり 教授
- ・指導内容 ペアやグループの対話やディスカッション、および発表活動等を通して、国際交流において基盤となるスピーキング力やプレゼンテーション力を高めることを、1年間を通しての流れとする。あわせて洋画、洋楽、海外文献等を活用しての異文化理解学習も適宜行う。
- ・内容の取り扱い及び学習指導計画

	学年・学科・コース等	第3学年・普通科・文系
	単位数	3単位
	授業担当者	英語科教員
科目の目標	英語での様々なコミュニケーション活動、発表活動を通じ、特に実践的なコミュニケーションへの意欲と表現力を高める。同時に異文化学習、国際理解学習を通してそれらに対する理解を深める。	
学習の到達目標	対話や発表活動を通じて英語による実践的な表現力をより高める。 ディスカッション活動などを通じて思考力・理解力・判断力をより深める。	
使用する準教科書	「VISION QUEST 英語表現 II Ace」(啓林館) 「LANDMARK コミュニケーション英語 II」(啓林館)	

## エ 学校設定科目「EAST プログラミング基礎」の研究開発

- ・令和3年度より開講
- ・島根県教委主催「共通教科情報『情報I』講座」を受講し、小・中学校でのプログラミング教育からのつながり、そして必履修科目「情報I」におけるプログラミングと本校の学校設定科目「EAST プログラミング基礎」との連携をいかに図るかを研究した。
- ・指導内容  
はじめにプログラミング言語「Python」による簡単な計算・表示などを学ぶ。その後、データソーティングなどの簡単なアルゴリズムについて学習し、それをプログラムに実装し、動作を確認していく。さらに様々なアルゴリズムについて学び、実装しながらプログラミングへの理解を深める。
- ・関係教材 みんなのPython 第4版 (SB Creative)
- ・内容の取り扱い及び学習指導計画

	学年・学科・コース等	第3学年・普通科・文系
	単位数	2単位
	授業担当者	プログラミングができる教員
科目の目標	自然現象や社会現象の問題点を発見し、コンピュータやプログラミングを活用し解決策を考えられるようにする	
学習の到達目標	① アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法や技能、生活の中で使われているプログラムを見いだして改善しようとする事を通じて情報社会に主体的に参画しようとする態度を身に付ける。 ② モデル化やシミュレーションの考え方を様々な場面で活用できるようにするために、問題発見や解決に役立て、問題の適切な解決方法を考える力を身に付ける。	
使用する準教科書	みんなのPython 第4版 (SB Creative)	

## オ 学校設定科目「EAST 地域探究」の研究開発

- ・令和3年度より開講
- ・指導内容 選択者10名が「地域」をテーマとして、それぞれの興味関心に基づいたテーマで探究活動を行った。生徒は個々で、または複数人でテーマを設定するなど、これまでの2年間で学んだ「探究活動」をより自由度を上げて取り組んだ。設定したテーマに関係する地域企業等にアポイントメントを取り、企画の立ち上げの段階から、様々な取り組みを校外の方と協働して行った。担当した教員は、アドバイザーとしてプロジェクトの進行について助言したり、行き詰まったときの伴走者として関わった。  
それぞれが行ったプロジェクトは、7月27日の本校のオープンスクールで中学生を対象として発表したほか、7月29日に開催された「山陰探究サミット」（主催 島根県立出雲高等学校）、本校学園祭での発表を行った。

・内容の取扱及び指導計画

	学年・学科・コース等	第3学年・普通科・文系
	単位数	1単位（半期履修）
	授業担当者	教員4名
科目の目標	本科目は探究的な学習に興味を持つ生徒や地域のことをより深く学びたい生徒が選択する。自分たちが生まれ育った地域社会の課題を見つけ、その解決策について考察し、新たな価値を生み出すビジネスモデルの創造を目指すなど、探究的なマインドやスキルを獲得する。	
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究スキルを身に付け、他の学習や社会に出てからそのスキルを活用することができる。</li> <li>・社会の様々な事象に興味・関心を持ち、学習意欲や思考力が高まる。</li> </ul>	
使用する準教科書	なし	

①「探究テーマ」：各探究テーマは、生徒自身が「地域」を中心に据えて考え、設定したものである。自分自身の趣味や生活、将来の進路など様々な分野での探究が行われた。以下にその一覧と要旨を記述する。

**【今だからこそライブハウスへ！音楽で地域を元気に】**

「コロナ禍だからこそ、生の音楽を楽しんでほしい」というコンセプトで、幅広い年齢層のライブハウスの楽しみ方を提案し、イベントを企画した。

**【島根の食衰退を止めるために】**

コロナ禍において経営苦慮する個人経営の食事店を助けることをコンセプトとして、オリジナルの食事券を発行し、個人経営店のサポートを行うための提案をしたい。

**【身近な情報源を活用する ～小・中学校の読書離れを改善する～】**

小学校・中学校の読書離れを改善するために、地域の小・中学校の図書館に協力してもらって読書の促進を探究する。

**【地域美容室の活性化】**

地域の美容室の集客をアップするための「SNS」等のツールの利用について探究する。

**【空き家をみんなが使えるスペースに！！】**

地域の「空き屋」の有効活用の方法を探究する。

**【中学生の探究活動 #フカマル】**

地域の中学生対象に、探究活動の楽しさを伝えるためにセミナーを開催する。地域と中学生をつなげることも目的とした。

**【不登校児童の実態を知ろう】**

地域の「不登校児童」の実態を知るとともに、周囲の人々の不登校の子供たちへの理解を深めてもらうための打ち手や、向き合い方を探究する。

**【松江市の18歳・19歳の投票率を上げるために】**

自分たち高校3年生の世代（18・19歳）の投票率を引き上げるための具体的な方法を探究する。

## 【「これだから松江市は」を「これだから松江市が」にするには】

「新しいことをチャレンジしたい人が松江に集まってくるとともに」を探究する。

## 【新たなつながりから生まれる新たな未来】

松江市内の異業種がつながり、お互いのいいところを活かして新たなものを生み出すクリエイティブな場づくりを探究する。

### ②「生徒の変容」

本授業は、1、2年生と探究活動を行った生徒のうち、さらに地域について深く探究してみたいと思った生徒が選択している。そのため、最初のテーマ設定の際に戸惑う生徒はほとんど見られなかった。一部テーマ設定に苦慮した生徒がいたが、どちらかというところ「やってみたいことが多い」という原因であった。このことから、ここまでの2年間の探究活動が「やりたいこと」「知りたいこと」を作り出すことにつながっていると考えられる。

一方で、設定したテーマを作り込んでいく過程では、ほとんどの生徒が苦慮した。事前調査、他地域との比較、課題の洗い出しなど、テーマに関する「仮説の設定」や「課題の設定」などに関しては課題研究のためのスキルの修得が十分ではなかった。

本授業においては、生徒自身が外部関係者と直接連絡を取り合っアポイントを取り、個人経営店舗に休日に訪れる、近隣行政にメールを送る、島根大学関係者など多くの外部機関と協働するといった取り組みを行うことができた。それらの外部機関との協働の過程を担当教員に報告し、次の手順を相談するなどこまめに行うことができた。

最終発表（オープンスクール、山陰探究サミット、本校学園祭）の際には、聴衆、学校関係者、1、2年生などから多くの高い評価をいただいた。これまでのプレゼンテーションの経験から、声の大きさや抑揚、聴衆とのやりとり、聴衆の様子に合わせたプレゼンなどプレゼンテーションスキルを獲得できている。



本活動を通して、最も生徒の変容を感じたのは進路選択に関する点である。ある生徒は、以前は関東や関西などの大都市圏において音楽関係に就職することを検討していたが、本活動を通して島根県におけるライブハウスの実態や魅力を知り、「県内に就職し、より魅力的な音楽関係の街作りに携わりたい」と考えるようになった。また他の生徒は、従来保育士を目指していたが、本活動において異業種がつながることで広がる可能性を感じ、「異業種がつながるためのプラットフォーム的な立場を目指したい」と進路先を変更するに至った。これらの活動によって、生徒自身の今後の生き方を考え抜き、自己のライフデザインを描いていくきっかけとなった。また、「地域」を題材とした探究活動によって、「地域」の課題や魅力に直に触れることとなり、最終的には「地域を盛り上げるための人材」として地域関係人口として活躍する意欲を高めた。

### ③「授業の評価」

本授業の評価は次の二つの方法で、総合的に評価を行った。

- 個人面談による探究活動のプレゼンテーション。「面談評価点」
  - 担当教員4名による、探究活動の取り組み過程に対する評価。「過程評価点」
- 詳細については、以下に記すとおりである。

#### (ア) 「面談評価点」

		1	2	3
知識・技能	情報収集	情報源を1つ答えることができる	情報源を複数答えることができる	情報源を複数答えることができ、情報源の種類が多様
	時間管理	全体のデッドラインを答えることができる	デッドラインを踏まえ、大まかなスケジュール感を答えることができる	週単位での計画を答えることができる
思考・判断・表現	現実性	実現すれば、地域への貢献度を感じる	実現までの課題を把握している	実現までの課題を把握し、その解決案まで考えられている
	深度	1つの項目に対して、1つの回答ができる	1つの項目に対して、2～3度の深掘りした質問に回答できる	新たな情報を付け足して回答できる
	多面性	1つの面から考えている	対照的な2つの面から考えている	複数の視点を変えて考える工夫を感じる
学びに向かう姿勢	表現力	大まかな内容が伝わる	細かな内容まで伝わる	内容は当然のこと、そこへの熱意や社会へのインパクトが伝わる
	諦めない	行き詰まっても投げ出さずに考えている	行き詰まったときに、冷静になって考えることができる	行き詰まったときに、他者などを意見を聞いて、再チャレンジすることができる
	主体性	指示されたとおりに行動することができる。	指示された内容に加えて、自分なりの工夫を加えて行動できる。	自らやるべきことを見つけ、進んで行動することができる。

(イ) 「過程評価点」

次の4つの項目について、生徒の活動を観察した結果を3段階で得点化した。

- 自分を知る力：自身の個性を理解し、自己の在り方を考えられる。
- 諦めずに追究する力：物事の意義・本質を納得いくまで探ることができる。
- 地域と関わる力：居住または生活している地域のために行動することができる。
- 自分の生き方を考える力：将来どのような人生を歩み、どう生きていきたいかを考えることができる。

**(3) 教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究**

新型コロナウイルス感染症の影響により先進校視察等を行えなかったが、島根大学の教員の研究室と学校とをオンラインでつないで公開授業を行った、のべ18名の大学の教員から授業改善に資する助言をうけた。

研究授業実施日	指導者	科目	クラス
令和3年6月15日	藤井 政之	数学 I	14R
令和3年6月15日	井上 美子	古典 B	32R
令和4年2月8日	足立 樹洸	英語表現	24R

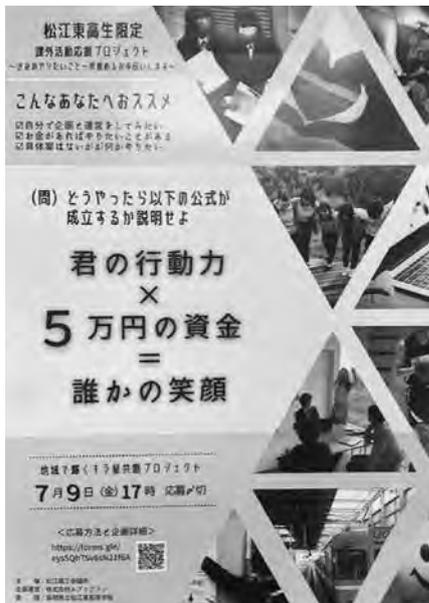
このほか6月、11月に授業公開週間を設け、すべての教科で互見授業・授業研究を行った。

**(4) 教育を核とした多文化協働・地域共創研究**

**ア キラ星共創プロジェクト**

松江商工会議所主催の「地域を笑顔にする」をテーマとしたプロジェクトの実施希望者が、本校生徒を対象に募集された。資金援助と地元大学生による伴走支援を受けられるこの企画について、5組の募集枠に対し10組の生徒たちがチャレンジし、プレゼンテーションによる審査会を経て全員の案が採用されることとなった。

7～11月までの期間のなかで、それぞれの生徒たちがプロジェクトを企画・実施。企業や行政機関、学校等と協働しながらプロジェクトを行った。審査会や発表会には松江市長をはじめとする多くの地域の参観者が訪れ生徒の挑戦を見守った。この取り組みは新聞や地元のラジオ等のメディアにとりあげられたほか、発表会終了後もビジネス化への進展も含め継続するプロジェクトもあり、さらに「地域共創」の視点での高大接続の今後の可能性を高めるなど、発展性のあるものとなった。



	プロジェクト名
1	音楽で地域を元気に ～ライブハウスから高校生ライブ生配信～
2	キラキラ大作戦～みんなで作ろう素敵な秋祭り～
3	イラストで地域おこし
4	フラワープロジェクト～ボランティアを身近なものに～
5	POP STEP ONE CHANCE ～本の世界の面白さを小学生に～
6	ペットを飼いたい人は保護施設へ
7	New Wind Project ～松江に異業種連携の新しい風を～
8	バスの時刻表と路線図
9	音楽で松江を明るく～瑞々しい若い音で松江を浸す～
10	Glocal medical project ～医療におけるグローバルな町作り～



小学生たちを笑顔にするプロジェクト



遊覧船上での演奏。地域を音楽で浸す。



成果発表会



自治体職員や企業・団体等から多くの参観者

## イ 埼玉県教育委員会主催「島根県×埼玉県 高校生交流事業」

- 1/13 (水) 16:00～17:00 キックオフミーティング
- 12/17 (金) 16:00～17:00 地域探究中間発表会
- 2/7 (月) 16:00～17:00 地域探究最終発表会

- ・埼玉県4校、島根県4校、学校教職員、自治体職員、大学生等が参加
  - ・本校より1, 2年生年生20名がオンライン参加
- 島根県と埼玉県の高校生が既存の枠から踏み出す「越境」の場と地域課題の解決等を通じた「探究」の機会から、これからの時代に求められている力の育成を目的とする。そして両県の高校生が、共学共創の学びの場をとおして、新たな価値を創り出していくことを目指す事業として3回の探究プログラムに参加した。

## ウ 地域と協働した「地域共創のタネ」を育てる活動

### ・朝酌川フラワープロジェクト

「朝酌川にコスモスを咲かせよう」をテーマに、河川敷の除石・雑草の除根の作業や、土づくり、種まきなど地域住民を中心に行われるプロジェクトに多くの生徒が参加した。月に1回程度、年間を通しての活動は地域の方々の思いに触れる機会となった



### ・川津児童クラブボランティア

地域の小学生の学習支援ボランティアに延べ30名の生徒が参加した。夏休み期間中に行われた5日間のボランティアのなかで、学習支援や体験活動の支援を行った。地域のボランティアの方からは、「高校生が児童に個々に関わってくれることは、児童の学習意欲を高め、その中での交友が見られ、ほほえましかった」「高校生に協力いただいてこの学習会ができることは、児童の学習への意欲を高め、関わりの中でお互いに学べる場でもあると思うので、今後も取り組みを進めていきたい」等の感想をいただいた。本校生徒のみでなく、小学生にとっても「地域のあたたかさを感じる」体験的な学びの機会となった。



## (5) 持続可能な学校魅力化事業研究

生徒が地域の多様な大人と交流する場「東高カフェ」を生徒自らが企画・運営できるように「東高カフェWG」で検討を進めている。保護者や教員とは違う、普段接することのない大人と交流する機会を自分たちで設け、自主的に参加することで自身の将来の選択の幅を広げたり、将来の姿をより具体的にイメージしたりすることを目指している。

回	実施日	参加者	内容
1	4月15日	生徒4名 大人2名(エブリプラン、教員)	第1回 東高カフェWG ・今年度の活動計画
2	7月14日	生徒4名 大人2名(エブリプラン、教員)	第2回 東高カフェWG ・第1回東高カフェの内容等の検討
3	7月26日	生徒8名 大人6名、大人3名(WG関係者)	第1回 東高カフェ ・大人から仕事内容など説明、質疑応答
4	9月22日	生徒5名 大人3名(エブリプラン、教員)	第3回 東高カフェWG ・活動計画の見直し
5	10月26日	生徒5名 大人2名(エブリプラン、教員)	第4回 東高カフェWG ・自走に向けた在り方の検討
6	11月22日	生徒5名、大学生2名 大人3名(エブリプラン、教員)	第5回 東高カフェWG ・自走に向けた在り方の検討
7	1月12日	生徒5名、教員1名	第6回 東高カフェWG ・第2回東高カフェの開催に向けて
8	3月24日	生徒、大学生、大人	第2回 東高カフェ ・高校卒業後の進路選択や仕事の選択など、人生の岐路において何を考えたかを大人から語ってもらう。



写真撮影のため、この瞬間だけマスクを外してもらいました。

### 第1回 参加生徒の感想

- ・大人から、自分の将来の参考になることが聞けてよかった。
- ・正直、自分が考えている将来の仕事とあまり関係がないから参加する意味があるのかなと思っていたけど、大人と話してみると深い関わりがあり参考になった。
- ・3月に開催したときは自分が聞きたい仕事内容の大人と語り合うことができなかったけど、今回は自分が興味のある内容について語り合うことができ、新しい発見があった。
- ・今回はとても雰囲気がよくて話しやすかった。看護師の方が参加できなかったのは残念だった。

#### (6) 単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究

単位制カリキュラム及び新学習指導要領に応じた教育課程について、校内の教科主任会において引き続き研究を行っている。生徒たちの進路目標とも関連付けて、地域共創コース開設にむけても引き続き研究を行っていく。